

ICT教育の推進及び学習機会の保障

～区立小・中学校におけるタブレット端末1人1台化～

～子どもの「学びたい」をかなえるICT～

児童・生徒一人ひとりが他者との学び合いを通して、自己に合った学び方を見つけ、力を伸ばすICT環境の実現

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言を受け、令和5（2023）年度までにタブレット端末の1人1台環境を実現するGIGAスクール構想の前倒しが発表されました。これに伴い、新宿区立学校においても、児童・生徒のICT教育の推進及び学習機会の保障を図るため、令和2年度内に「1人1台端末」の整備に向けた取組を早急に進めていきます。

【子どもの力を伸ばすICT環境】

- 遠隔・オンライン教育 → 学習機会の確保「いつでも・どこでも勉強できる！」
- AIを活用したドリル → 習熟度に応じた学習支援「わかるから楽しい！」
- 協働学習の充実 → 子ども同士の学び合い「みんなで議論するから考えが深まる！」
- 多様な学習支援 → 学習障害への対応「読み・書きで苦手なことをカバーしてくれる！」
→ ルビ振りや字幕対応「漢字がわからないけれど、読むことができる！」



タブレット端末の整備及び教育用ネットワークシステムを再構築します

児童・生徒、教員用タブレット端末の1人1台の整備（令和2年度末まで）

数量：約15,000台
仕様：LTE通信対応タブレット端末
（学校では既存の校内Wi-Fiで利用し、家庭ではLTE通信を行う）※LTE通信の費用は区が負担

【経費】
649,403千円（予定）



効果1 個別最適化（個別の状況に応じた「主体的な学び」の創造）

- 【方向性1】 児童・生徒一人ひとりに個別最適化された学び
【目指す姿】 児童・生徒一人ひとりが自己の課題を理解し、教師の最適な支援の下で資質・能力を伸ばすことができる。
- 【ポイント】 ①文房具としてのタブレット端末（1人1台環境）
②各教科に対応したドリル教材
③習熟度に応じた学習支援
- 【方向性2】 国籍や障害の有無に左右されない学び
【目指す姿】 児童・生徒自らが多様な学習手段を選択でき、自己に合った学び方を見つけることができる。
- 【ポイント】 ①音声（動画）やルビ振りの対応が可能
②入力方法、表示や言語等の設定変更が可能
③マルチメディアデিজィー教科書の活用



効果2 協働学習

- 【方向性】 他者と協働しながら自ら考え抜く自立した学び
【目指す姿】 協働学習を通して、多様な意見に気付き、自己の考えに価値を見出しながら、学びを深めることができる。
- 【ポイント】 ①児童・生徒と教師との間で課題の提示・提出が可能
②グループでの共同作業が可能



効果3 学習機会の確保

- 【方向性】 学校の臨時休業等の状況下でも、確かな学習が保障される学び
【目指す姿】 登校できない状況下にあっても、学習内容（家庭学習を含む）、通信環境等を公正に提供することができる。
- 【ポイント】 ①家庭に持ち帰ることができるタブレット端末の整備（LTE通信可能な端末（クラウド、ブラウザ利用））
②動画による双方向授業が可能
③児童・生徒と教師とのオンラインでの通信が可能

